

日立みらいイノベータープログラム 2022年度の出張授業がスタート

日立財団は、これからの理工系人材に求められる問題発見力や、課題解決力を育成するために、小学校5年生を対象としたプロジェクト型探求プログラムの「日立みらいイノベータープログラム」を開発しました。2016年より、日立グループ各社と連携し、出張授業を実施しています。

2022年度も、昨年度に引き続き、コロナ禍での実施となりましたが、教育現場は、コロナ以前の日常に戻りつつあります。全4校のうち2校はオンラインの出張授業、残り2校は、感染対策に十分配慮し、対面で実施しています。



柏市立酒井根東小学校

酒井根東小学校は、昨年度、出張授業1回目を終えています。2022年6月30日に出張授業2回目、9月22日に出張授業3回目を実施しました。

昨年度は、おとなしい印象だった児童たちも、最高学年になり講師に積極的に質問したり、グループ内で様々な意見を出し合うなど、児童たちの成長に、講師も大変驚いていました。



出張授業2回目では、自分たちが決めた課題を一つにしぼり、講師とグループで議論します。講師から中間発表に向けて、アドバイスをもらい、やる気に満ち溢れていました。



出張授業3回目は、中間発表会で、1組、2組それぞれの教室で実施しました。グループごとに、理想の学校のための課題解決策を考え、講師とクラスみんなに発表しました。

以下3校は、今年度スタートの学校のため、9月から出張授業1回目をスタートしました。

戸田市立戸田南小学校

9月6日実施



今年度から出張授業1回目で日立製作所東原会長が紹介する、地球温暖化解決のために日立製作所が取り組んだ社会イノベーション事例の動画をご覧いただきました。児童の皆さんは、真剣なまなざしで見てくださいました。

日立財団から提供しているワークシートを1人ずつiPadに取りこみ、先生のモニターと繋ぎ、全体共有をしていました。



玉村町立上陽小学校

9月14日実施



児童の皆さんが真剣に取り組む食器が水に「しずむ、しずまない」の実験の様子が上毛新聞の記事として、掲載されました。

日立市立おおみか小学校

9月27日実施



5年生が1学級の大みか小学校の5年1組はクラスで協力しあい、和気あいあいと実験に取り組む姿が印象的でした。

NewsLetter

Vol.43 / 2022.10

日立財団では、財団の活動情報を集めたニュースレターを発行しています。シンポジウム、セミナー、表彰式などの活動報告や、最新のトピックスなど、日立財団に関するさまざまなニュースをお届けいたします。ぜひご覧ください！

理工系女子応援プロジェクト

公開対談&ワークショップ Vol.8 公開

「研究者になってHAPPY!! ~進路・仕事・子育てのこと教えちゃいます～」と題し8月2日に公開対談&ワークショップを開催しました。会場となった株式会社日立製作所 中央研究所の施設見学も行き、23名の女子中高生に参加いただきました。

理工系女性ロールモデルに、株式会社日立製作所 研究開発グループ 寺本 やえみ氏と、田中 佐知氏をお迎えし、サイエンスエンターテイナーの五十嵐 美樹氏と公開対談を行いました。その後のワークショップでは、対談を聞く前と後での理工系女子に対する印象や理工系に進む気持ちの変化などについて、参加者同士のグループワークで意見交換し、将来のなりたい自分について考えました。



寺本 やえみ氏

株式会社日立製作所 研究開発グループ
デジタルサービス研究統括本部
先端AIイノベーションセンタ 知能情報研究部
リーダー主任研究員



田中 佐知氏

株式会社日立製作所 研究開発グループ
サステナビリティ研究統括本部
電動化イノベーションセンタ
生活システム研究部 主任研究員



五十嵐 美樹氏

東京大学大学院情報学環客員研究員・サイエンスエンターテイナー、全国でサイエンスショーを開催し、講師を務めている。NHK高校講座「化学基礎」のレギュラーとして活躍中。



対談動画



Facebook



倉田奨励金

2022年度(第54回)の選考を開始

倉田奨励金は、日立製作所の第2代社長、故倉田主税が日本の科学技術の発展を願って設立を提唱し、資金を出捐したことにより1967年に創設された研究助成金です。

独創的・先駆的な自然科学・工学研究と、高度科学技術社会に通底する人文・社会科学を研究対象としており、2021年までに1,526名の研究者へ、総額約25億円の助成金を贈呈しました。

2022年度の募集は7月1日～9月15日に行い、現在選考委員会にて厳正な審査を行っております。受領者は2023年1月に決定(予定)し、同3月に日立財団ウェブサイトにて公開、贈呈式をとり行います。

倉田奨励金

研究報告書 第51集 WEB版を公開

日立財団では、倉田奨励金による研究成果を広く一般の方にも公表するため、年に1度「倉田奨励金研究報告書」としてWEBと冊子で公開しています。

12月発行予定の冊子版に先行して、WEB版を公開しましたので、下記URLから是非ご覧ください。

今年度発行の第51集には、2019年度～2020年度に受領された研究者の研究成果を掲載しています。

第51集 倉田奨励金研究報告書 (2022年発行)



<https://www.hitachi-zaidan.org/activities/kurata/research-report51.html>

日立財団アジアイノベーションアワード

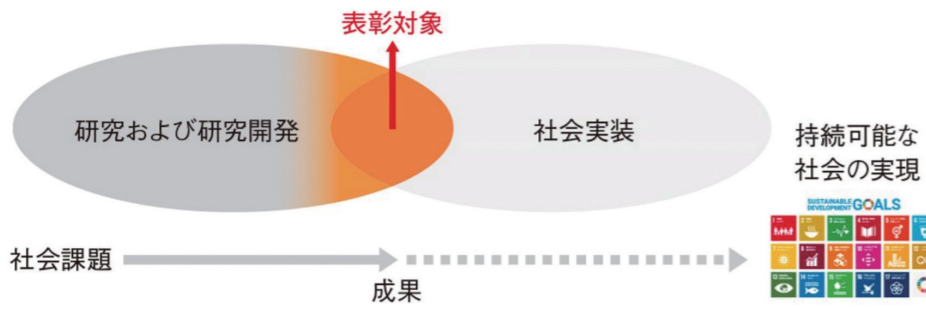
2022年度の受賞者選考を実施

概要

日立財団アジアイノベーションアワードは、ASEANの社会課題解決と持続可能な社会実現に資する科学技術イノベーションを促進するために2020年度から開始した表彰事業です。本アワードでは、持続可能な開発目標(SDGs)への貢献を目的として、あるべき社会像を描き、科学技術の社会実装を計画に入れた優れた研究および研究開発において、画期的な成果をあげ、明らかに公益に供したと思われる個人またはグループを表彰します。

2020年度に12件(最優秀賞2件、優秀賞2件、奨励賞8件)、2021年度に12件(最優秀賞1件、優秀賞3件、奨励賞8件)を選定しました。現在、2022年度の受賞者選考手続きを進めており、2023年1月に、2020年～2022年度最優秀受賞者の表彰式開催と2022年度受賞者のウェブ公開を予定しています。

アジアにおける科学技術イノベーション



表彰内容

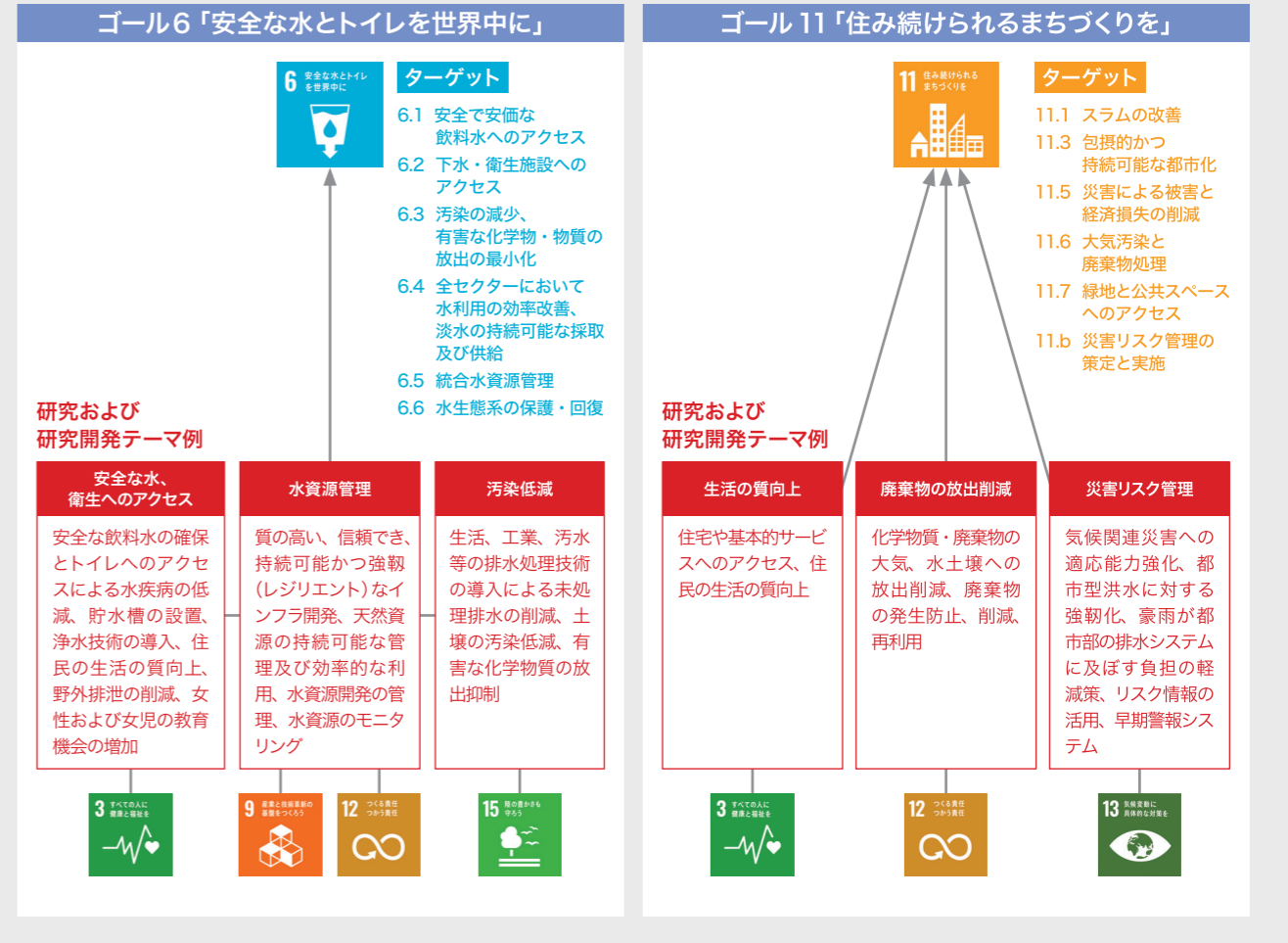
-  **最優秀賞**
300万円/件
-  **優秀賞**
100万円/件
-  **奨励賞**
50万円/件

募集内容

SDGsの17のゴールと169のターゲットのうち、毎年2つのゴールといくつかのターゲットを選定し、これらに貢献する研究および研究開発の成果を募集します。また、自国やASEANのあるべき社会像を描いた、成果の社会実装計画も提出いただきます。

[2022年度の募集内容]

2021年度のASEAN諸国のSDGs達成状況より、未達成の課題が多く残っていたゴール6「安全な水とトイレを世界中に」とゴール11「住み続けられるまちづくりを」のそれぞれ以下のターゲットに貢献する研究および研究開発の成果を募集しました。



応募対象

募集内容に合わせて、毎年、ASEAN10か国の中から、対象国、対象大学および研究機関を選定し、各大学および研究機関より応募者を推薦いただきます。応募者は、個人またはグループで、対象大学または研究機関に所属する研究者、教員、学生です。

[2022年度の応募対象]

ASEAN諸国のうち、ゴール6とゴール11の課題が多く残るカンボジア、インドネシア、ラオス、ミャンマー、フィリピン、ベトナムの6か国を選定し、これらの国において、ゴール6とゴール11の研究分野で国を代表する、23の大学を対象としました。

応募書類

1. 申請書 (研究および研究開発の紹介ビデオを含む)
2. 推薦書
3. 成果の証明 (論文、特許など)

選考基準

1. あるべき社会像と研究および研究開発の関連性
2. SDGsのゴールへの貢献度
3. 包摂性
4. 科学技術の活用
5. 革新性
6. 社会実装計画の実現性
7. 社会実装計画の継続性、発展性

スケジュール

